

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名		各種学級(女性・成人・高齢者学級)開設事業		担当部署	教育委員会 生涯学習人権課	
総合計画体系				根拠法令 計画など	「社会教育法」第3条・第5条の規定	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり		事業 期間	開始	昭和
政策(中項目)	4	生きがいあふれるまち なんと				36 年度
(小項目)		生涯学習				
施策	1	生涯学習の推進			終 期	
基本事業	1	学習活動の推進				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 20歳以上の市民						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	各種学級に参加する人がそれぞれ豊かな心を育み、生きがいを感じながら健康的に人生をすごしていると実感できること。						
事業計画	26年度に何を計画していたか	社会教育指導員が中心となり、これまでと同じように講師・公民館長や学級長との良好な信頼関係が築けるように努め、スムーズな学級運営をおこなう。 毎年度、学級終了時にアンケート調査を実施し、学級生の満足度や学習要望等により、魅力ある学級開設に努め、地域の方々の生きがいづくりの一助となるように学習内容の充実に努める。 各種学級への参加者を対象にしたアンケート調査を実施し、学習内容に関する満足度やニーズなどを調査する。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位
		学級学習の内容を有意義と思った割合	92.0	92.0	92.0	93.0	93.0	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	女性学級10、成人学級3、高齢者学級8を公民館や集会所などで開設し、社会教育指導員のコーディネートにより学級長を中心に自主的な学級運営を行っている。学級生の学習ニーズをアンケートなどで把握し、26年度の学習計画に反映する。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
	指標名	25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位
活動指標 <small>実施した事業の活動量を示す指標</small>	1 学級開設数	21	21	21	21	21	学級
	2 学級参加延べ人数	3648	3350	4000	4000	4000	人
成果指標 <small>対象にどのような効果があったか示す指標</small>	学級学習の内容を有意義と思った割合	85.7	85.5	—	—	—	%
	目標達成率(実績/目標)		92.9	—	—	—	%
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり	事業全体の進捗状況			ほぼ計画どおり		

(千円)

財源内訳	平成26年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額		0	0	0	0	551	551
		全体予算額		0	0	0	0	551	551
		決算額		0	0	0	0	453	453
		繰越額		0	0	0	0	0	0
	人件費		正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)	総人件費		総事業費		
		0.1	1.0	2,711		3,164			

事業費推移	年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度
	事業費	424	453	521	521	521
	うち一般財源	424	453	521	521	521
	人件費	2,664	2,711	2,711	2,711	2,711
	総事業費	3,088	3,164	3,232	3,232	3,232

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		近距離にある公民館を単位とする生涯学習の場として、受講生の満足度は高い。
	効率性	B:概ね効率的だった		受講生のニーズに合わせた内容の講座を積極的に取り入れた。
②成果に対する評価	指標名	学級学習の内容を有意義と思った割合		受講生の高齢化・固定化の傾向があり新たな受講生の参加が少ない。
	目標	92	%	
	実績	85	%	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		<b>B</b>		多様化・高度化する現代社会に対応するための学習機会の提供をおこなった。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	新たな受講生を増やすために、講座の構成や内容の検討をおこなう必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	<b>2</b>
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	各種学級の講座の構成や内容について検討をおこない、様々なニーズに対応できる講座の開設を検討する。			
	H28年度	H27年度に検討し実施可能な講座について、順次実施する。			